

令和 7 年度社会医学実習テーマ

1. 労働者の心理社会的ストレスに関する現状と対策に関する研究（関根教授：9-10 名程度）

職場におけるメンタルヘルスの向上を目的として、労働安全衛生法の改正によりストレスチェック実施が事業者に義務付けられて約 10 年が経過した。本実習では、日本公務員研究のデータを用いて、労働者における心理社会的ストレスの現状を把握するとともに対策について検討する。

2. 労働者の睡眠不足と睡眠障害に関する現状と対策に関する研究（関根教授：9-10 名程度）

スマートフォンの普及などにより社会の 24 時間化が加速しており、睡眠不足や睡眠障害の有病率も上昇傾向にあるとされる。本実習では、日本公務員研究のデータを用いて、労働者における睡眠不足と睡眠障害の現状を把握するとともに対策について検討する。

3. 近視、斜視と生活習慣の関連（山田准教授：9-10 名程度）

子どもの近視（裸眼視力 1.0 未満）が増加している。近視は遺伝的な影響（眼軸の延長）に加え、近業（近くを見る作業）の増加や野外活動の減少が理由である。また近年、後天性内斜視の患者数、手術数も増加している。この実習では勉強や読書などの近業による視機能への影響について、測定機器を用いた実験を行う。（コンタクトの人は測定時は外してください。）

4. デジタル機器の学習効果に関するアンケート調査と文献的考察（山田准教授：9-10 名程度）

コロナ禍以降、タブレットやスマホといったデジタル機器の使用時間が著しく増加している。また学習にタブレットを使用する学生が大多数となっているが、2022 年の調査では学習効果が低いことや目への負担が強いわかった。今回は Google form を利用したアンケートからその後の学生の学習状況や健康について調査し、文献的考察を行う。

5. 特性別 Well-being 関連要因の検討（立瀬助教：9-10 名程度）

富山県では「Well-being」の成長戦略を掲げており、総合的な県民幸福指標をして Well-being の向上が求められている。今回、富山市で実施した地域調査による Well-being データを利用して、男女や保険者属性の違いなどによって生活満足-不満足に関連要因がどのように違うか分析を行う。

6. Well-being 指標の短期間における影響要因の検討（立瀬助教：9-10 名程度）

Well-being という概念は単に感情的な Happiness とは区別され、持続的な幸福を意味することが多い。そのため、介入による短期間での変化はあまり検討されていない。今回、富山市で実施した職域調査による縦断データを利用して、短期間での Well-being に影響する因子の同定、並びに介入の可能性について検討する。

7. 公衆衛生上の緊急事態下における子どもたちの健康問題を考える（庄司医師：9-10 名程度）

災害時など公衆衛生上の緊急事態下においては子どもたちの生活環境が大きく変わることによる健康への影響が問題となる。特に近年ではコロナ禍が子どもたちの心身の健康に与えた影響は非常に大きかった。本実習では、国内外の文献検索や公開されたデータの分析を行い、今回の経験を元に今後同様の状況が起こった場合に必要な対策について検討する。

8. エコチル調査のエビデンスを活用したプレコンセプションケア教材の開発（土田助教：9-10 名程度）

プレコンセプションケアは、妊娠前の世代に将来の妊娠のための健康管理を促す取り組みである。本グループは、プレコンセプションケアそのものを学びどのようなメッセージを伝えることが重要か精査する。また、プレコンセプションケアの重要性を伝えるための教材をエコチル調査のエビデンスを活用して制作する。

9. 富山大学にアニマルセラピーを導入する可能性の検討スウォーキングマップを活用するウォーキングプランの作成（土田助教：9-10 名程度）

動物とふれあうことでストレスが改善し、情緒の安定がもたらされることが知られている。学生のメンタルヘルス改善のためアニマルセラピーを導入している大学が国外には存在するが、国内での事例はない。本グループは、アニマルセラピーを導入している大学の事例および効果検証した論文があるかレビューする。効果が認められるようであれば、本学でも導入可能かを議論する。

10. 高額療養費制度改正を考える（米本教授：9-10 名程度）

高額療養費制度は、高額な治療を受けた際に、患者の負担が重くならないよう、ひと月あたりの医療費の自己負担に上限を設けるものです。政府は昨年 12 月に負担上限額を、さらに今年 8 月から再来年にかけて段階的に引き上げる方針を示しました。しかし、多くの反対意見が起き、結局 3 月に見送りになりました。高額な医療費の問題は、経済毒性（Financial Toxicity）とも呼ばれ、諸外国でも問題になっています。なぜ今、高額療養費制度の改正が必要なのか、なぜ反対意見が起き、見送りになったのか、負担の引き上げは患者さんや医療機関にどのような影響があるのか、わが国、諸外国の状況や先行研究、根拠となるデータを収集、整理し、今後どのような議論が必要か整理し、現実的な提言を作成してください。

11. オープンデータから世界の学校保健を考える（米本教授：9-10 名程度）

世界学校ベース学生保健調査（The Global School-based Student Health Survey：GSHS）は、世界保健機関（WHO）や米国疾病対策予防センター（CDC）等が共同で実施した、13 歳から 17 歳の学生の健康関連行動に関する調査です。主に開発途上国で調査が行われました。（調査の概要は International Journal of Epidemiology, 2023, e102–e109.

<https://academic.oup.com/ije/article/52/2/e102/6814404> を参照）

本データはオープンデータになっています。先行研究を整理し、複数の国のデータを解析、比較して、開発途上国の学生の健康の課題や特徴や介入の余地を新たに明らかにし、提言をまとめてください。

12. 多角的視点で探るドクターヘリ実態の分析（清水先生：9-10 名程度）

ドクターヘリは現代の救急医療体制において重要な役割を担っている。本実習ではドクターヘリの機材や処置の実態を各国および各県の事情を踏まえ、論文レビューも取り入れ学術的知見から比較検討する。さらに富山県のオープンデータを活用し、救急車とドクターヘリが合流するランデブーポイントのマッピングを作成することで地域の特性を明らかにする。

13. 人と人との関係・ソーシャルキャピタルから地域が持つ力を考える（松本先生：9-10 名程度）

地域に住む人と人との信頼やお互い様という関係性を表す「ソーシャルキャピタル（以下 SC）」という概念がある。公衆衛生や社会学では、SC が地域に住む人々の健康に影響するだけでなく、災害や地域の医療にも影響することが知られている。今回は、富山県の調査データを用いて富山県における SC 現状を分析し、フィールドワークを踏まえた社会的な視点に立ち健康との関連を検討する。